

キラリ★プロの目

私はこうして
電気事故を防いだ!



感電事故を未然に防止

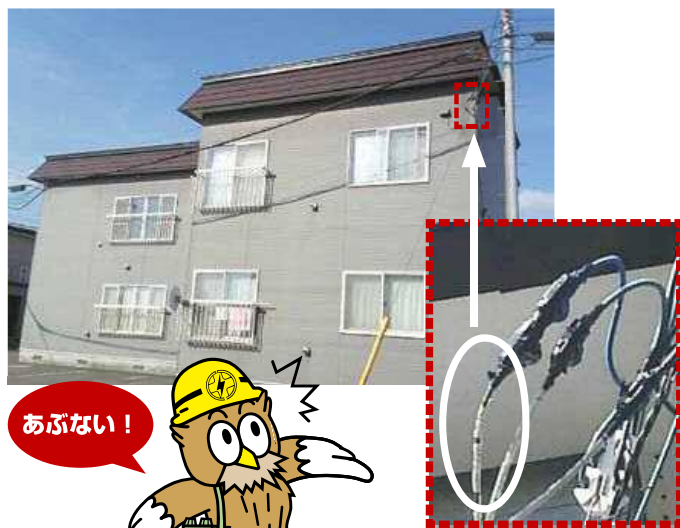
点検対象	一般家庭（アパート）	点検地区	旭川市
キラリポイント	定期調査業務でいつものように屋内点検を済まし、屋外の点検をしていたところ、引込口C Vケーブルの絶縁被覆が 損傷 、 充電部 （電気の流れている部分）が 露出 しているのを 発見 しました。 すぐにアパートの管理会社にケーブルの状況と危険性を説明し改修をしていただきました。		

■事故防止対策

C Vケーブルは『架橋ポリエチレン絶縁シースケーブル』の略称で、屋外で使用する際の耐久性は比較的高いのですが、直射日光を受ける場所では紫外線で被覆が劣化する性質のため、表面にテーピング処理を行う必要があります。しかし、テーピングされていなかったりテープがはがれてしまった状態では絶縁被覆が劣化し、ひび割れてしまい、その部分に触れると感電します。

過去には小学生がバドミントンのシャトルやボールを取ろうと屋根に上がった時や塗装業者が作業中に、ひび割れたC Vケーブルの充電部に誤って触れてしまい感電負傷や死亡事故がありました。

チェックポイントはここ！



ケーブルの被覆損傷か所

■技術者からのワンポイントアドバイス

4年に1回の定期調査では、電気設備で改修が必要な場合はお客さまに『電気設備の不良箇所のお知らせ』をお渡しし、不良箇所の説明をさせていただきます。改修は、お客さまから電気工事会社にご依頼いただくことになります。

また、電気工事以外でも、電気設備付近で作業する場合や配線やメーターの移動を伴う際は感電の危険もありますので、電気工事会社や電力会社にご相談ください。



旭川支部 調査課
山出 良紀